

専修大学自己点検・評価に関する 外部評価報告書

2022（令和4）年度

2022（令和4）年11月1日

専修大学自己点検・評価に関する
外部評価委員会

目 次

1. 自己点検・評価報告書に対するご意見・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 評価できる点について	
(2) 改善を要する点について	
2. 入学ガイド 2023 に対するご意見・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(1) カリキュラム（学びの内容）に対するご意見等について	
(2) 入学者の受け入れに対するご意見等について	
3. その他本学に対するご意見等・・・・・・・・・・・・・・・・	4

委員一覧

1. 自己点検・評価報告書に対するご意見

(1) 評価できる点

〔2〕 法学部	2021年、学部が精力的に取り組んだ、あるいは現在取り組んでいる諸点につき、法学部のポリシー、そこにある修得させるべき4つの能力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、知識形態に基づく思考と知の創出）、カリキュラム・マップ、そしてコロナ禍におけるオンライン授業の取り組み、GPS-academic等々との関連で、詳細にかつ理解しやすく記述されているとの印象をもつ。（坂本委員）
〔9〕 経済学研究科	学部学生や修士課程の院生の進学意欲、在学院生の学修意欲の喚起の観点からの試行錯誤、学修成果の測定や論文審査の基準についての現在における検討状況を反映した記述となっている。（坂本委員）
〔12〕 経営学研究科	これまでの、研究科の運営から見えてきた改善点について、合意形成がなされていることを示す記述となっている点が、評価できる。（坂本委員）
〔18〕 図書館	<p>国立情報学研究所のERDB-JPへのパートナー登録や、山手線内の8大学図書館コンソーシアムへの正式加盟による利便性の向上、専修大学電子資料のディスカバーサービス提供や、オンライン形式での図書館利用案内の実施の取り組み、利用者サービスの質の向上と学生の安心・安全な利用環境の整備のための努力、などについて、懇切丁寧な記述がなされている。（坂本委員）</p> <p>学生の学修及び利用者に配慮した図書館の整備に関し、クイズラリーの実施、YouTubeによる利用案内動画配信、学生に親和性のあるSNS(Instagram)の活用などにより活性化を図っている点が評価できる。また川崎市立多摩図書館や多摩区の3大学（専修大学、明治大学、日本女子大学）とのネットワークの構築なども評価できる。（黒田委員）</p>
〔20〕 情報科学センター関係	ICT環境の絶えざる更新のために、次期教育・研究用コンピュータシステム検討委員会の設置、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定のための教育カリキュラム導入に向けた設置準備委員会の立ち上げについての記述が、目を惹く。（坂本委員）
〔21〕 入学試験関係	<p>入学試験に関して、様々な変化への対応が図られており、常に改善している様子が見受けられる。</p> <p>具体的には豊富な奨学金メニュー、英語外部試験による英語試験科目の免除制度、全国に拡大された試験会場等、様々な受験者の立場を考慮した施策であり評価できる。（黒田委員）</p> <p>公正・公平な入学試験において、令和3年度から試験監督業務の一部を外部委託されている。実施後には、試験監督要領及び試験監督業務事前研修をより理解しやすい内容に見直すなど、確認された課題の改善に取り組まれていることは評価できる。（佐野委員）</p>
〔22〕 学生生活関係	学生への食料支援プロジェクトの開催、障がい学生の支援、心理的成長に関する課題をかかえる学生の支援等について、適切な配慮がなされているのを読み取れる記述である。（坂本委員）

〔23〕 体育部関係	体育会学生の学業支援のための、スポーツ学生支援室の設置や、スポーツ推薦入学の留学生へのチューター採用、などの配慮の記述が目を惹く。（坂本委員）
〔24〕 就職指導関係	35 地方自治体との就職支援協定に基づく支援、U・I・J ターン合同説明会による支援、10月に稼働した新システムやキャリアカウンセラーによるWeb相談による支援など、きめ細かな体制の整備の努力が読み取れる記述となっている。（坂本委員）
〔25〕 国際交流関係	コロナ禍という困難な状況の中での、オンラインによる海外プログラムの実施、そのプログラムでのSDGsをテーマとした講義や現地学生とのプロジェクトトーク、現地企業でのオンライン就業体験の実施などの工夫や、留学・国際交流With コロナ特設サイトの開設などの努力について、詳しい記述がなされている。（坂本委員）
〔26〕 キャリアデザイン関係	キャリアデザイン科目の充実と、低学年時からの配置の取り組み、コロナ禍でのオンラインでのインターシップの実施、「課題解決型インターンシップ」「リーダーシップ開発プログラム」でのSDGs視点の導入と強化などについて、詳しい記述がなされている。（坂本委員）
〔27〕 社会知性開発研究関係	神奈川県大学発・事業提案制度での、「SDGsの浸透・普及のための啓蒙活動-神奈川県の中小企業を対象に-」の採択、「中小企業SDGs研究拠点」の活動の記述が、目を惹く。（坂本委員）
〔28〕 社会連携関係	<p>KS パートナーシップ・プログラム連絡協議会での、with コロナ、after コロナ期における社会連携・社会貢献のあり方、SDGsに関する取り組みに関する意見交換、およびそれらを含めての川崎市と専修大学との関係強化の努力についての記述が、目を惹く。（坂本委員）</p> <p>SDGsやサステナビリティへの対応など、社会の変化に対して、貴校との産学連携の内容・在り方も、変化させていかなければならないと考えている。一方で、当社の新たな取り組みに(地域価値の創造等) 対して、貴校の先生、学生さんたちに理解が一層深まっていることも、提出されるレポートなどからも読み取ることができる。今後も講義やゼミ活動を通じて、地域の発展に貴校と共に取り組んでまいりたい。（黒田委員）</p> <p>貴大学は川崎市との基本協定を基に、多摩区においても3大学連携協議会を通して様々な分野での連携事業を行っていただいている。コロナ禍で制限のある中ではあるが、対面での取組も進められており、地域に活力をいただいていることに感謝するとともに高く評価したい。（佐野委員）</p>

(2) 改善を要する点

〔1〕 経済学部	2020年度からの3学科体制を中心に据えた記述となるのは当然であるが、それだけにこの2年間の実施で気付いた【長所・特色】、【問題点】の記載があってもよいように思うが、完全な無記述とされているのには、若干の違和感を覚える。（坂本委員）
----------	--

〔4〕 商学部	商学部が採用している各方針は理解できたが、その実施により気付いてきた【長所・特色】、【問題点】についての記述が全くないのは、自己点検・評価中間報告書にその欄が設定されている趣旨からみて、若干の違和感を覚える。（坂本委員）
〔7〕 人間科学部	教育課程の編成において、心理学科と社会学科で、相当にきめの細かい配慮がなされているのを知らしめる記述となっている。その細かい配慮からは、【長所・特色】、【問題点】も見出されているはずと思われるが、その記述が少ないのが残念である。（坂本委員）
〔21〕 入学試験関係	コロナ禍での入学試験の実施には、なおいろいろな配慮がなされたのではないかと思われるが、自己点検・評価中間報告書には、もう少しそれらに関する記述があってもよいように思われる。（坂本委員）
	with コロナの時代に合った、オープンキャンパスのオンラインメニューの充実が図られるとなお良いと思いました。（黒田委員）

2. 入学ガイド 2023 に対するご意見

（1）カリキュラム（学びの内容）に対するご意見等

坂本委員	ホームページでは、社会知性の開発という教育目標に基づいて、各学部のカリキュラムポリシーがそれぞれ定められ、それに沿ってカリキュラムが編成されていることが明示されているが、入学ガイドでも、どこかの箇所にその旨の記述を入れるのが望ましいように思う。
黒田委員	専修大学入学ガイド 2023 において、高校と大学の違いを具体例を挙げ、一つ一つ丁寧に解説している点がわかりやすいと思った。また P11、12 では、様々な分野の学科に関して、何を学ぶことができるのかを、一覽で系統だてて、確認することができる点も良いと思った。P13、14 に対しては経済学部、経営学部、商学部など高校生にとってはその違いを理解するのはなかなか困難なことであろうかと思うが、コンビニを事例として、どのように学問と関わり合いがあるのかを明確に図化され説明されており、それぞれの違いが分かりやすく表現されていた。なかなか流動的で判断が難しいと思われるが、with コロナ時代の学修への対応方法などの記載があっても良いのではないかと思った。
佐野委員	入学ガイド 2023 では、「学びへの招待」として大学のあり様を丁寧に記載し、大学進学に不安のある高校生に寄り添っている工夫がみられる。各学部・学科については、その違いや、それぞれに応じた学びを、STEP、POINT などで分かりやすく記載されている。大学 4 年間でどのように学び、何を修得するか、学生生活をどう過ごすかなど、進学先を決める上でガイドブックは重要なツールとなるが、より読みやすく工夫されている。

（2）入学者の受け入れに対するご意見等

坂本委員	P142 入試スケジュールの後の P143 に、専修大学が先駆的に取り組んできた特色である、P145 記載の全国 21 会場で受験可能の記載を移して、かつ大きく掲載する方が良いように思う。
------	--

黒田委員	<p>オープンキャンパスなどの開催に関しても、6月～12月にかけて長期間に对面による開催、オンライン開催、また YouTube などによるキャンパス紹介など、積極的な取り組みが見られ、専修大学を目指す高校生にとって大学を知る機会を丁寧に対応なさっているのを感じることができた。また全国の21会場で受験できることも、地方の高校生にとっては、入学できるチャンスが広がり、安心感につながると思う。</p>
佐野委員	<p>入学ガイド 2023 では、『今こそ、「社会知性」の出番だ。』のキャッチフレーズが目を行っている。このキャッチフレーズを冒頭見開きに置いたことで「社会知性」が強く印象付けられ、専修大学 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」から貴大学の建学の精神がより伝わりやすくなったこと、また『SDGs』と『Si データサイエンス教育プログラム』についても冒頭から貴大学 Web サイトへの誘導が自然にされていることは評価できる。</p>

3. その他本学に対するご意見・ご要望等を含め自由にご記入ください。

坂本委員	<p>「知の発信」を標榜する専修大学において、専修大学学術機関リポジトリ (SI-Box) への紀要論文の登載が、紀要発刊後 4 か月以上の期間を要しているのは、遅すぎると思う。</p>
黒田委員	<p>当社との産学連携の取り組みに等に関して、当社の組織変更や新たな中長期経営ビジョンの設定に際し、講義内容の一部変更の相談などに対して、担当教授や事務局スタッフが親身に相談にのっていただくことができ、感謝を申し上げる。事業の中に DX、共創、ローカライズの 3 つの発想を取り入れながら、地域価値創造型企業を目指している当社にとって、今後も専修大学様と産学連携の取り組みによって、地域の社会課題の掘り起こしやその課題の解決に向けたアクションに結びつけ、より良い沿線環境を専修大学様と共創してまいりたいと存じる。</p>
佐野委員	<p>貴大学は、多摩区・3 大学連携協議会を通じて、地域社会と連携して実践的な活動を展開していただいている。また、学生個人の社会参加においても地域とのつながりを大切にいただいている。その一例として、令和 4 年 4 月に実施した多摩区制 50 周年記念式典でのパネルディスカッションでは、商店街等と連携した清掃活動などを実践している学生に登壇をお願いし日頃の活動をお話しいただいたところ、地域活動・地域交流の好事例として好評をいただいた。コロナ禍で人と人とのつながりの大切さを再認識する今日、若い世代の皆さんが地域とのつながりを大切に様々な活動されていることを大変うれしく思うとともに、今後の貴大学の学びに大いに期待をしている。</p>

専修大学自己点検・評価に関する外部評価委員会委員一覧

(敬称略)

区分	委員氏名
【第3条第1号】 委員長	委員長 佐々木 重人 専修大学長 (※1)
【第5条第1号関係】 専修大学名誉教授の称号を授与された者	坂本 武憲 専修大学名誉教授 (※1)
【第5条第2号関係】 本学の所在する地域の 地方自治体、企業等に 所属する者	黒田 邦方 小田急電鉄株式会社 広報・環境部長 (※2) 佐野 純子 多摩区・3大学連携協議会座長 (川崎市多摩区副区長) (※1)

※1：任期 委嘱日から令和6年3月31日まで

※2：任期 委嘱日から令和5年3月31日まで

以 上